



## 2期生募集のお知らせ



**塾長 泉 貴嗣 (いずみ よしつぐ)**

【プロフィール】

東京農工大学大学院博士課程満期退学。武蔵野大学環境オフィス講師として「CSR・SRI論」などを担当した後、CSRコンサルティング事務所「允治社」代表として活動。

全国の自治体で初めて事業者のCSR経営を認証する「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」を設計。

現在も同市のCSR政策の審議機関、さいたま市CSR推進会議の委員を務めるほか、静岡市の「静岡市CSRパートナー企業表彰」を手掛ける。またJASDAQ企業の監査役なども務める。

著書に『中小企業のためのCSR読本』（さいたま市刊）『新CSR検定3級』（共著 オルタナ刊）など。

現在「CSR JAPAN」で「試験に出ないCSR」を連載中

【CSR経営導入塾ではこのようなことが学べます（授業の一コマ）】

### 「ウソを消費させる事業者のリスク」

4回目にCSR(企業の社会的責任)を考える上でネタにしたのはウナギのかば焼き。典型的な日本料理の1品だが、果たして輸入原料で焼いたウナギのかば焼きは果たして「本当の日本料理」か？それは本当の【日本料理としてのウナギのかば焼き】ではなく、【日本料理という記号】ではないのか？お腹が空いたからウナギという(空腹を満たす)機能、ではなく土用の丑「らしさ」という意味、つまり「記号」を目的とする消費を社会学では「記号消費」という。記号の消費が目的になるとモノやサービスの機能は重視されず、マーケティングなどで誰かに付与された記号が重要になる。一見安っぽいエコバッグでも、有名ブランドのロゴという記号がつけば、欲しがるヒトが現れるのも記号消費の一例だ。

この問いには企業と消費者にとって重要な問題が含まれている。それは良い記号、つまり良いイメージを醸成すれば消費者を欺くことも可能であり、一方で事業リスクを増大させ得るという点である。環境対策で有名な自動車メーカーが大規模なマーケティング活動を行う傍ら、環境規制を不法に潜り抜けていたケースが典型的なケースである。環境の世界では記号消費を「グリーンウォッシング」というが、実際にはあらゆるビジネスで記号消費はあふれており、ISO26000の7つの中核課題の1つである「消費者課題」の趣旨に反し、「潜在的な事業リスク」となっている。

われわれは持続可能な発展のためにも、ビジネスの中の記号消費の問題を真摯に考える必要がある。それがCSRの第1歩だといえるだろう。

輸入うなぎ = 日本食文化？



【講座詳細】

開催：全5回

開催場所：出席者に別途御案内（東京駅近辺です）

参加費：1回あたり3,000円（税込）

（テキスト込）

対象者：CSRに関心があり、本質を学び実践に活かしたい方

主催/事務局：一般社団法人エコ食品健研究会

第1回開催予定

2016年4月18日 18時30分～20時30分

※塾生の皆さんの予定を確認してなるべく多くの方がご参加できるように日程調整いたします。

塾生の取組

「看板が頭上から落ちてくる!？」

世の中の看板の7割以上は違法な看板です。違法な看板は、そもそも安全基準を満たしていない場合が多く、設置後の定期点検もされず長年に渡って放置され大変危険です。最近、台風が大型化するなど気象状況の変化も災いして、バブル期に取り付けられた大型の看板が歩道に落下するという事故が増えています。私の会社は、そのような危険な看板を診断して事故を未然に防ぐ「看板ドクター」というサービスを展開しています。社会貢献活動というと、寄付やボランティア活動などを連想しますが、自分たちの仕事を通じて社会課題を解決することも社会への貢献でありCSR(企業の社会的責任)であると言えます。

アオイネオン(株) 荻野

【お申込み方法と流れ】



・ 下記メールアドレスもしくは、ホームページのお問い合わせから必要事項をご記入いただき御申込みをお願い致します。

**Mail** otoiawase@eco-health-food-lab.org

**HP** http://ecoken-workshop.jimdo.com/

・ 件名：導入塾希望

・ 本文：参加者名、参加人数、所属団体

【お申込み先】一般社団法人エコ食品健研究会 ボランティア担当 宛て

※御電話でのお問い合わせは受け付けておりません。大変申し訳ございませんが全てWEBでお願い致します。

